

I. 現代文化学部卒業時アンケート調査の概要

1. 目的

- 1) 学生自身が4年間の現代文化学部における学びを振り返り、現代文化学部の教育、支援及び自己の成長について評価する。
- 2) 1)の結果に基づき、現代文化学部の継続的な教育改善に役立てる。

2. 実施

- 1) 対象：東京純心大学現代文化学部 令和3(2021)年度卒業生 26名
- 2) 時期：令和4(2022)年2月5日
- 3) 配付・回収方法：令和4(2022)年2月5日の卒業論文・研究・制作発表会の全体説明にて配付、回答後即回収
- 4) 回収状況：24名（回収率92%）

3. 質問項目

- 1) DP（「ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与に関する方針」の習得状況に関する自己評価
- 2) 現代文化学部の教育（講義・演習・実習・初年次教育）改善の必要性について
- 3) 現代文化学部の支援について
- 4) 学生の成長について
- 5) 現代文化学部の教育に対する満足について

II 調査結果

1. DP（ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与に関する方針）の自己評価について

		習得状況					
		① いる 身につ いて	② ある 程度 身 につ いて いる	③ い えな い ど ち ら と も	④ つ い て い な い あ ま り 身 に	⑤ い な い 身 に つ い て	
DP1	「こども・からだ・こころ・あそび」の四つのキーワードからアプローチを学修し、現代社会の中で主体的に判断し表現できる資質を備える。	こどもの心・身体・遊びを理解する力	6 (25%)	16 (67%)	1 (4%)	0 (0%)	1 (4%)
		主体的に判断・表現する力	5 (21%)	14 (58%)	4 (17%)	0 (0%)	1 (4%)
		こどもとともに遊びを楽しむ力	10 (42%)	12 (50%)	1 (4%)	0 (0%)	1 (4%)
DP2	こども文化の研究を通して研鑽した豊かな感性と人格の陶冶をもって、世界の平和のために協働できる。	平和を願い求める力	10 (42%)	10 (42%)	3 (13%)	1 (4%)	0 (0%)
		豊かな感性	9 (38%)	8 (33%)	6 (25%)	1 (4%)	0 (0%)
		人格の陶冶（人間尊重の精神と高い倫理観）	5 (21%)	12 (50%)	6 (25%)	1 (4%)	0 (0%)
DP3	こども文化全般への広い視野と深い認識をもち、保育・教育に関する豊かな専門的知識と技能を習得し、こどもの「育ち」に資することができる。	保育・教育に関する専門的知識や技能	3 (13%)	18 (75%)	2 (8%)	1 (4%)	0 (0%)
		保育・教育の職に対する意識や意欲	7 (29%)	15 (63%)	1 (4%)	0 (0%)	1 (4%)

☞ 「①身についている」、「②ある程度身についている」と回答したものを合わせると、「こどもの心・身体・遊びを理解する力」、「こどもとともに遊びを楽しむ力」、「保育・教育に関する専門的な知識や技能」、「保育・教育の職に対する意識や意欲」において、約90%と高い習得状況を示している。一方、「豊かな感性」、「人格の陶冶」において、約70%とやや低くなっている。

DP達成状況

		習得状況				
		①身についている	②ある程度身についている	③どちらともいえない	④あまり身についていない	⑤身についていない
DP1	「こども・からだ・こころ・あそび」の四つのキーワードからアプローチを学修し、現代社会の中で主体的に判断し表現できる資質を備える。	21 (29%)	42 (58%)	6 (8%)	0 (0%)	3 (4%)
DP2	こども文化の研究を通して研鑽した豊かな感性と人格の陶冶をもって、世界の平和のために協働できる。	24 (33%)	30 (42%)	15 (21%)	3 (4%)	0 (0%)
DP3	こども文化全般への広い視野と深い認識をもち、保育・教育に関する豊かな専門的知識と技能を習得し、こどもの「育ち」に資することができる。	10 (21%)	33 (69%)	3 (6%)	1 (2%)	1 (2%)

☞ 「①身についている」、「②ある程度身についている」と回答したものを合わせると、「DP1」が87%、「DP2」が75%、「DP3」が80%と、いずれも高い割合になっている。

【参考】ディプロマ・ポリシーに関わる評価平均値

		平均値
DP1	「こども・からだ・こころ・あそび」の四つのキーワードからアプローチを学修し、現代社会の中で主体的に判断し表現できる資質を備える。	2.9
DP2	こども文化の研究を通して研鑽した豊かな感性と人格の陶冶をもって、世界の平和のために協働できる。	2.8
DP3	こども文化全般への広い視野と深い認識をもち、保育・教育に関する豊かな専門的知識と技能を習得し、こどもの「育ち」に資することができる。	3.1

*各ディプロマ・ポリシーを達成する必修科目の最終評価の平均

2. 現代文化学部の教育（講義・演習・実習・初年次教育）改善の必要性について

		①改善の必要がある	②改善の必要はない	③どちらともいえない
1)	4年間の講義について	2 (8%)	15 (63%)	7 (29%)
2)	4年間の演習について	1 (4%)	20 (83%)	3 (13%)
3)	4年間の実習について	1 (4%)	17 (74%)	5 (22%)
4)	初年次教育について	2 (8%)	20 (83%)	2 (8%)

☞現代文化学部の教育（講義・演習・実習・初年次教育）改善の必要性について、「①改善の必要がある」と回答した割合はいずれも10%未満と低かった。

3. 現代文化学部への支援

		①とても充実していた	②充実していた	③どちらともいえない	④あまり充実していなかった	⑤充実していなかった
(1)	アドバイザーによるサポート・相談について	19 (41%)	11 (24%)	6 (13%)	6 (13%)	4 (9%)
(2)	進路・就職に対するサポート・相談について	9 (20%)	19 (41%)	7 (15%)	7 (15%)	4 (9%)
(3)	卒業論文・研究・制作に対する支援について	6 (13%)	22 (48%)	8 (17%)	7 (15%)	3 (7%)

☞ 「①とても充実していた」、「②充実していた」と回答したものを合わせると、「(1) アドバイザーによるサポート・相談」が65%、「(2) 進路・就職に対するサポート・相談」が61%、「卒業論文・研究・制作に対する支援」が61%と、いずれも高い割合になっている。

4. 本学での学びや体験を通して、入学時と比べた成長の程度

	①とても成長した	②成長した	③どちらともいえない	④あまり成長しなかった	⑤成長しなかった
本学での学びや体験を通して、入学時と比べてどの程度成長したか。	7 (29%)	12 (50%)	5 (21%)	0 (0%)	0 (0%)

☞ 「①とても成長した」、「②成長した」と回答したものを合わせると79%と高い割合になっている。

5. 現代文化学部の教育に対する満足度

	①とても満足している	②満足している	③どちらともいえない	④あまり満足していない	⑤満足していない
現代文化学部の教育に満足しているか。	3 (13%)	15 (63%)	6 (25%)	0 (0%)	0 (0%)

☞ 「①とても満足している」、「②満足している」と回答したものを合わせると76%と高い割合になっている。